

平成24年行政事業レビューシート (環境省)

事業名	自然模倣技術・システムによる環境技術開発推進事業		担当部局庁	総合環境政策局		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成25年度～平成26年度		担当課室	総務課環境研究技術室		環境研究技術室 長坂 雄一		
会計区分	一般会計		施策名	9-3 環境問題に関する調査・研究・技術開発				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	—		関係する計画、通知等	「第4期科学技術基本計画」(平成23年8月閣議決定) 「第4次環境基本計画」(平成24年4月閣議決定) 「環境研究・環境技術開発の推進戦略について」(平成22年6月中央環境審議会答申)				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	第4次環境基本計画(平成24年4月閣議決定)でも指摘されている資源制約・環境制約の増大に対応するため、極めて効率的なエネルギー・資源の循環を達成している自然を参考とした技術・システム、すなわち「自然模倣技術・システム」について調査・検討を行い、有望な自然模倣技術・システムのリストアップ、及び今後の環境技術の開発に対する貢献の可能性について明らかにすることを目的とする。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	自然模倣技術・システムの概念を確立したうえで、それを新たな研究開発に活用していく一般的な手法を明らかにすることを目標に検討を行う。具体的には、過去の企業における自然を参考にした技術の開発事例の分析や、生態学に基づく見地から技術・システム設計に対しどのようなインプリケーションがありえるのかについて、識者へのヒアリングやアンケート調査等によって分析し、検討会において報告書の形で取りまとめる。得られた優れた成果については、平成27年度に予定されている新たな「環境研究・環境技術開発の推進戦略」へインプットしていく。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求	
		補正予算	—	—	—	—		
		繰越し等	—	—	—	—		
		計	—	—	—	—	10	
	執行額	—	—	—	—			
	執行率(%)	—	—	—	—			
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	22年度	23年度	24年度	目標値 (25年度)
	環境技術の開発に結びつきうる生物生態等の事例の提示数	成果実績	件	—	—	—	10	
		達成度	%	—	—	—		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込
	分析対象とした研究開発事例の数		活動実績 (当初見込み)	件	—	— (-)	— (-)	(10)
単位当たりコスト	1(百万円/成果実績)		算出根拠	事業費:10百万円 成果見込み数:10				
平成24・25年度予算内訳	費目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由				
	公害調査費	—	10					
	計	—	10					

事業所管部局による点検				
	評価	項目	評価に関する説明	
目的・ 状況・ 予算の 状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	<ul style="list-style-type: none"> ・資源制約・環境制約への対応が国民的な課題となっている中で、一層環境に配慮した環境技術の開発を実施していくための新たな考え方の整理は優先的に取り組むべき問題である。 ・一般的かつ有用な方法論を検討する事業であり、受益者が、全国の企業、研究機関等に及ぶことから、国が実施すべき事業と言える。 	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。		
	－	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。		
資金の 流れ、 費目・ 用途	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・競争入札により、コストを削減しつつ、効率的に支出先を選定する予定。受益者は全国の企業、研究機関等が広くあてはまることから、政府予算で実施することは妥当である。 	
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。		
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。		
	○	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		
活動実績、 成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・多数の企業や研究機関が活用できる成果を、国が一括して検討することで、高い実効性を担保できる。 	
	－	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。		
	－	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		
	－	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。		
		※類似事業名とその所管部局・府省名		
	－	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		
点検結果		<ul style="list-style-type: none"> ・国として実施することが妥当な事業を、競争性を確保しつつ、実施する予定となっている。 ・得られた優れた成果については、平成27年度に予定されている新たな「環境研究・環境技術開発の推進戦略」に盛り込み、環境省全体としてバックアップしていく予定である。 		
予算監視・効率化チームの所見				
		<p>エネルギー・資源の消費を極力抑えた環境技術としての自然模倣技術・システムについて調査・検討を行い、有望な自然模倣技術・システムのリストアップ、及び今後の環境技術の開発に対する貢献の可能性について明らかにするよう努めること。</p>		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)				
補記 (過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)				
関連する過去のレビューシートの事業番号				
平成22年行政事業レビュー		平成23年行政事業レビュー		